

有害プランクトン情報 (平成30年度 - No. 2)

千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

○ 調査日	沖合	5月 第1回	内湾 (8地点)	5/11	内房 (6地点)	5/11
		5月 第2回	内湾 (8地点)	5/22	内房 (7地点)	5/21
	貝類漁場内	九十九里 5/10	千葉北部 5/10,18,24,28		木更津北部 5/6,15,21,29	
			木更津南部 5/7,14,22,30		富津 5/8,16,21,28	

【有害プランクトンの出現状況】

- シャットネラ属、シュードシャットネラ属、カレニア属は確認されませんでした。
- ヘテロシグマ属の最大密度は5/24に貝類漁場内の一部で0.10細胞/mLでした。
- 赤潮 (透明度 1.5 m 以下、pH8.5 以上、酸素飽和度 150%以上) は確認されませんでした。
- ※ シャットネラ属プランクトンは1細胞/mL、ヘテロシグマ属プランクトンは1000細胞/mL、カレニア属プランクトンは100細胞/mLの密度を超えた場合に注意報を発行します。

【貝毒プランクトンの出現状況】

- 麻痺性貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。
- 下痢性貝毒原因プランクトンの最大密度はディノフィシス アキュミナータが5/22に羽田沖で今年度最大の19.35細胞/mL、ディノフィシス カウダータが同日同所で0.05細胞/mL、ディノフィシス ロンダータが5/21,22に船橋・羽田沖・大貫で0.10細胞/mLでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

○ 各海域で見られたプランクトンの優占種

5/11	内湾	珪藻	ダクチリオソレン属(図1)
	内房	珪藻	ダクチリオソレン属、リゾソレニア属
5/22	内湾	珪藻	ダクチリオソレン属 スケルトネマ属 (図2)
5/21	内房	珪藻	キートセロス属、ダクチリオソレン属



図1 ダクチリオソレン属
(5/11 羽田沖)



図2 スケルトネマ属
(5/22 船橋、赤枅内)

